# 次期交通政策基本計画の策定に向けた話題提供

~平成30年7月豪雨等の対応の教訓と課題から~

神田 佑亮 呉工業高等専門学校 y-kanda@kure-nct.ac.jp

# 道路の被災状況





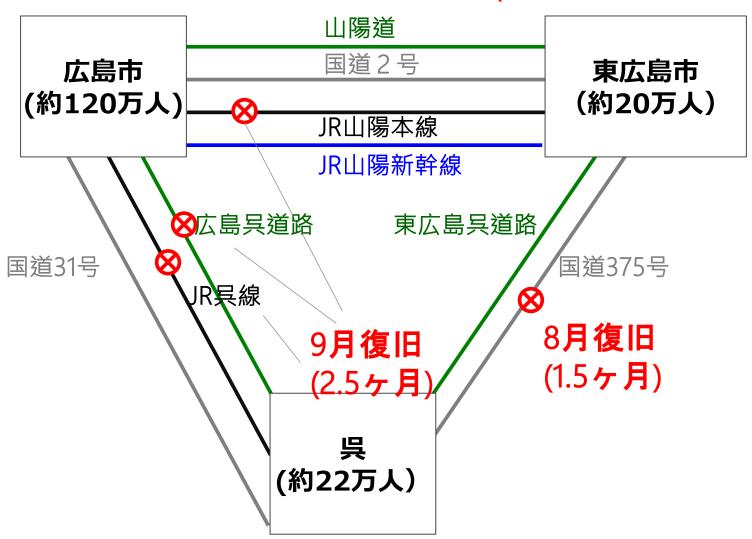






### H30.7月豪雨による交通障害

• 交通状況(概略図)発災翌週(7/14)時点



# 通常時の交通量からみた国道31号への負荷

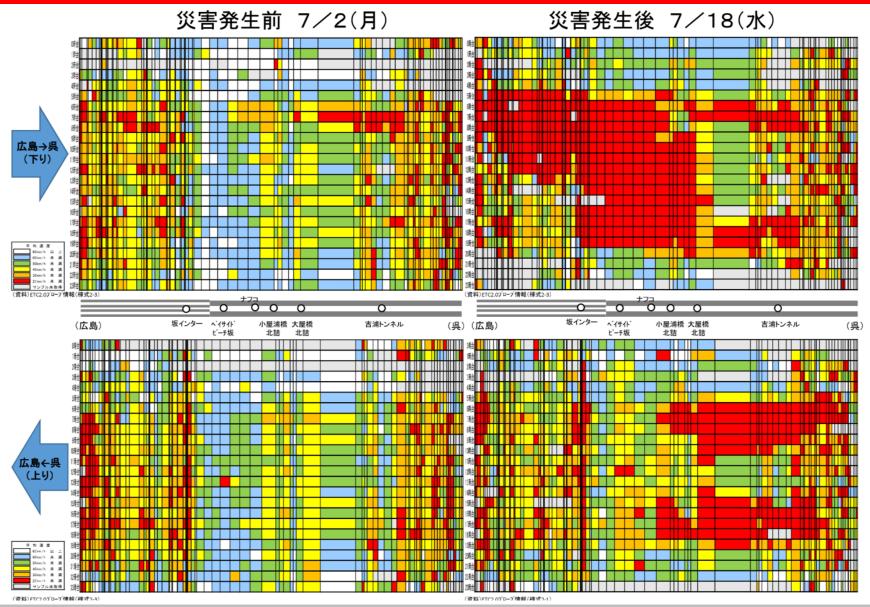
・広島~呉間の自動車数・乗客数(24時間or1日)

#### 発災前





# 結果として, 夜中以外渋滞

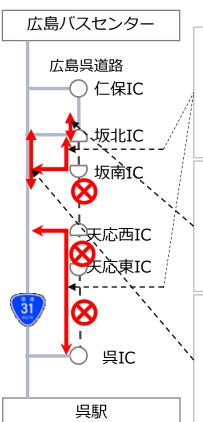


# 災害時BRT(Bus Rapid Transit)

- 「使える道路空間」を柔軟に活用し、バス専用の走行空間を確保
- ・ 所要時間が短縮し安定.便数増加,利用者増,渋滞緩和の好循環に (発災直後:2-3時間→運用開始後は約1時間)
- ■通行止状況と交通渋滞 (7/13(金)発災1週間後)



■災害時BRTの構成:渋滞を悪化させずバスの速達性を確保



#### 通行止区間 をバス走行 (7/17-)

本線でUターンし, 逆向きのハーフICを 通行



#### 自専道に バス専用車線 (7/26-)

規制で使われて いない車線を転用



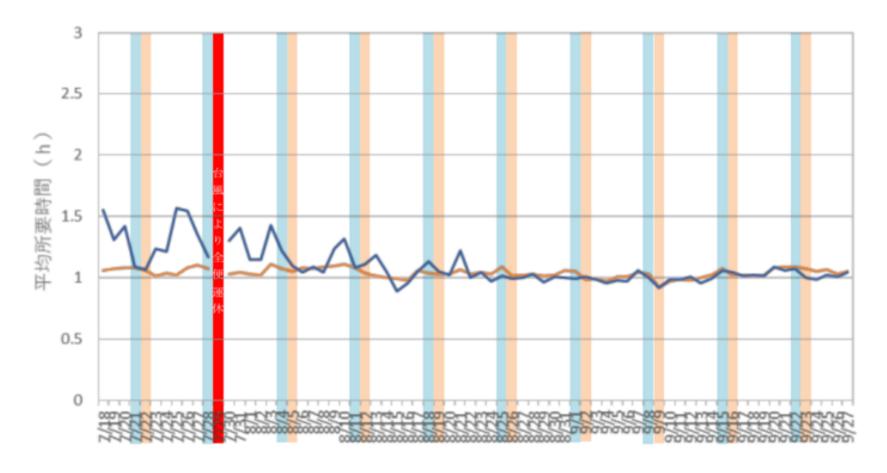
#### 国道31号 バス専用レーン (8/8-) 時間限定で

バスレーンを設置



# バス所要時間(広島BC-呉駅)

- 吳→広島BC 間: 7/13(災害時BRT実施前):2時間55分
- 広島BC→呉 間:7/13(災害時BRT実施前):2時間57分



——広島方面 —— 呉方面

# バスロケもダウン



資料:東京大学 伊藤昌毅先生

### d-TRIPのコンセプトとプロジェクト



#### アクセス数の実績と利用者の声

- ・広島市方面からのWebアクセス の実績
  - ●200ユーザ
  - ●2,000ページビュー

#### 【利用者の声】



バスの位置情報が正確 だったので、便利だった。

資料)呉工業高等専門学校 神田教授資料より

#### ③ バス運行実績情報の提供

- ホームページにて、所要時間と座席満空の実績情報を提供。
- 利用者の方々は時間や待ち時間が読めるようになる。
- 所要時間実績と満空実績とを提供するのは全国初の試み。



#### ④ バス走行位置情報の提供

- ポータブルGPSシステムを用いて、バスの位置情報をリアルタイム 情報提供。
- ・朝の通勤・通学時間帯の運行便を対象に、8/20~9/7で運用。
- 災害時にポータブルGPSシステムを用いて情報提供を行なった事例







URL | https://skybrain-

bus. ekispert. jp/osm\_viewer/index/hiroshima 短縮版URL | http://bit.ly/20BudTH

資料)災害時情報提供研究会

メンバー:広島電鉄(株)、西日本旅客鉄道(株)広島支社、(公社)広島県バス協会、(株)バイタルリード、(株)ヴァル研究所、(株)トラフィックブレイン、(株)ファイコム、呉市、広島県 地域政 🖊 策局地域力創造課、広島大学 国際協力研究科、呉高専 環境都市工学分野、東京大学 生産技術研究所

# 災害時公共交通情報提供研究会とは

- 非常時運行となっている豪雨災害発生後の公共交通の情報提供について,産官学 が連携し研究・検討を進めてきた.
- 呉(広島) エリアのみならず, 全国の専門家・組織と連携. 遠隔からのサポート の災害時支援モデル.
- それぞれが持つ技術・ノウハウを融合し、災害時に、利用者の円滑な移動のため に求められる情報提供を手軽に実現する方法を模索・研究
- 今回の試行運用により、他地域を含めた今後の災害時の迅速な公共交通情報提供 のためのモデル化を目指す

産











広島電鉄(株) 公共交通事業

西日本旅客鉄道(株)(公社)広島県バス協会 広島支社 **公共交诵事業** 

バス情報の包括的な 情報提供

(株)バイタルリード 交通コンサルティング・ バス位置計測技術

(株)ヴァル研究所

公共交通情報提供 (駅すぱあと) バス位置情報提供システム

官



吳市



広島県 地域政策局地域力創造課

Traffic Brain

(株)トラフィックブレイン 交通情報解析

taucom

(株)ファイコム Webマーケティング



広島大学 国際協力研究科 藤原章正 教授(交通工学)



**吳高專** 環境都市工学分野 神田佑亮 教授(交通システム)



東京大学 生産技術研究所 伊藤昌毅 助教 (ユビキタス・コンピューティング)

### 現地での対応で困ったこと・感じたこと

- 1. 「交通(運輸)」と「インフラ(建設)」の連携とタイムライン
- 2. 危険箇所のリスクマネジメントはどうなっている?
- 3. 地域の輸送力が間接的にレジリエンスを高める?
- 4. 交通手段のボーダレス化
- 5. 情報システムが止まった
- 6. 対策を進める財源問題
- 7. 地域内輸送への対応が十分だったか?
- 8. 法規制などが平常時前提
- 9. コミュニケーション戦略・モビリティマネジメント
- 10. 災害時対応と過疎地MaaSは似ている?

# 1. 「交通(運輸)」と「インフラ(建設)」の連携

• H30.7号発生後の広島〜呉間の交通マネジメントの経緯(発災〜7/31)



発災後72時間,約1週間(or 72時間以降のはじめの週末), それ以降の3フェーズでのタイムラインを織り込んだ, 部局横断型のBCPが必要 発災

啓開(復旧) ここまで7-10日

クラッシング 可能??

公共交通運用 + 段階復旧・改善

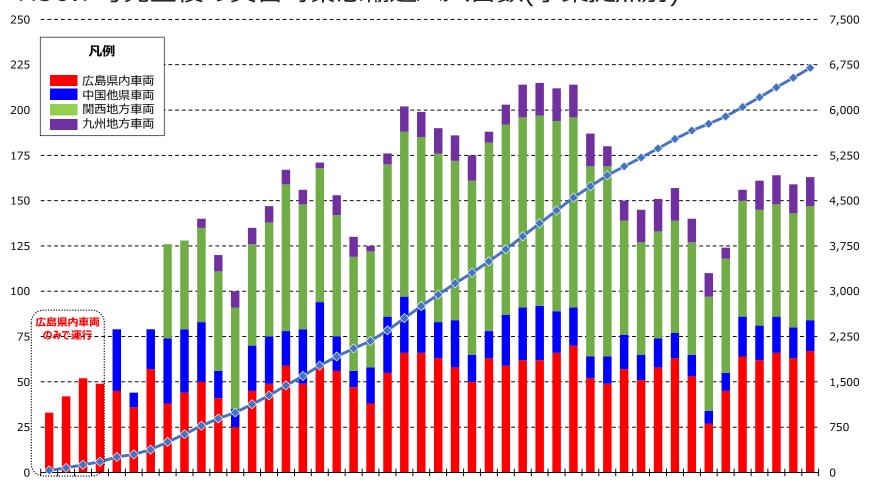
# 2. 危険箇所のリスクマネジメン<u>トは?</u>



- リスクを回避するのか?低減するのか?受容するのか?
- ・ 受容する場合, どう受容するのか?
- 交通量(経路)に加え,地域間輸送量(総OD)や代替手段や経路の冗長性を考慮すべき

#### 3.地域の輸送力が間接的にレジリエンスを高める?

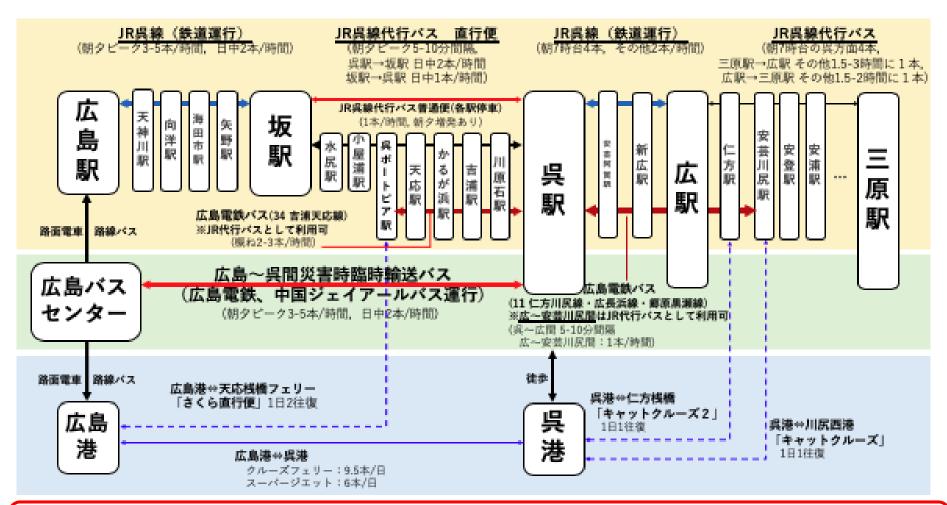
H30.7号発生後の災害時緊急輸送バス台数(事業拠点別)



- 地方の事業者が少なければ、対応のスピードや供給力は落ちる
- バス事業者の撤退や縮小の進行で,今後の激甚化する災害に耐えれるか?
- ・ 建設工事での「地方建設業者の縮小」と同じ構図?

### 4.交通手段の「ボーダレス」化

• 8月前半の災害時公共輸送体制



船があったおかげ助かった!

# 4.交通手段の「ボーダレス」化

• 10人乗りバス(広島・備北交通)





- ・ タクシー以上論線バス未満の交通手段
- ・ バスとタクシーの境界線を外した議論に?



### 5.情報システムが止まった



#### アクセス数の実績と利用者の声

- ・広島市方面からのWebアクセス の実績
  - ●200ユーザ
  - ●2,000ページビュー

#### 【利用者の声】



バスの位置情報が正確だったので、便利だった。

資料)呉工業高等専門学校 神田教授資料より

#### ③ バス運行実績情報の提供

- ホームページにて、所要時間と座席満空の実績情報を提供。
- 利用者の方々は時間や待ち時間が読めるようになる。
- ・ 所要時間実績と満空実績とを提供するのは全国初の試み。



#### ④ バス走行位置情報の提供

- ・ポータブルGPSシステムを用いて、バスの位置情報をリアルタイム 情報提供。
- ・朝の通勤・通学時間帯の運行便を対象に、8/20~9/7で運用。
- 災害時にポータブルGPSシステムを用いて情報提供を行なった事例 は全国初







- ・ インフラとしてのGTFS-RTの整備は急務(標準データ:外部が支援可能)
- できれば,データ更新の体制を持続的な形で
- 提供するデータのあり方も要検討(利用者目線&運営管理効率化)
- ・ パブリックコミュニケーション戦略も!

### 6.対策を進める財源問題

#### 双 公共交通機関の利用促進~災害時交通情報提供サービス「d-TRIP」~

● 災害等で公共交通の運行が不安定・不確実な場合に、公共交通に関する情報を包括的に情報提供し、 人々の移動をサポートする複合的な交通情報プロジェクト(d-TRIP: disaster- TRansit Information Project)を実施。

● 利用者の目線から、少しでも安心して公共交通が利用できるために情報を提供



資料)災害時情報提供研究会 メンバー:広島電鉄(株)、西日本旅客鉄道(株)広島支社、(公社)広島県パス協会、(株)バイタルリード、(株)ヴァル研究所、(株)トラフィックブレイ) 筆局地域方向活理、広島大学 国際なり研究科、以高車 環境都市工学分野、東京大学 生産技術研究所



- H30.7豪雨での情報提供対応は、関係者(民間・学)の完全持ち出し
- ・ 情報のみならず、交通マネジメントのための資金や財源の整理ができていない.
- 平常時の交通マネジメントも含めて、整理が必要

### 7.地域内輸送への対応が十分だったか?

### 発災後10日後以降(7/17~7/31)の交通二力んする地元紙記事

背景:広島一呉間の災害時BRT輸送など主要な幹線交通が復旧し始めた

キーワー	- <b> </b> *	総数
バス		38件
高齢者		27件
外国人		4件
親子		1件
子連れ		0件
乳幼児		2件
	計	72件

【被災全般】**交通の代替サービスの偏在**. 代行輸送の情報が行き届かず、混雑が続く

【高齢者】通院や買い物ができない. 地元自治会がタクシーを借り, 買い物や病院通いをサポート.

【外国人**】空港まで行き方を尋ねる相談** 

【通学】始業時間に間に合わない.送迎が保護者の負担



フェーズ4から読み取れるニーズ

- 1. 代行輸送の情報の周知
- 2. 高齢者の交通の確保
- 3. 外国人への交通や災害の情報提供
- 4. 代行輸送のダイヤの調整

### 8.法規制などが平常時前提

- 例:路線バスの規制
  - ・ 車検証に 「高速道路等において運行しない 自動車として保安基準に適合」と記載
    - 多くの「路線バス車両」が該当: 高速道路を走行できない



- 「手続き」により, 災害時に緩和 (70km/h規制の道路での走行)
- 手続きなければ, 路線バス車両が活用NG
  - 輸送力(定員)は,路線バス>高速バス
  - 高速道路を使用した回送も困難



- 高リスク地域での事前一括申請ができない?
- 上記のように,通常時の手続きが,災害時の対応力を低下させる ものもあり,リスク時の対応の精査が必要
- 手続きの電子化の対応の遅れもレジリエンスを低下させている

### 9.コミュニケーション戦略・モビリティマネジメント

### ・災害時交通マネジメント検討会



#### 『広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント 検討会』を設置します

平成30年7月豪雨災害直後、整備局や県、市、警察などで構成される「広島県 災害時渋滞対策協議会」を設置し、広域迂回への誘導、緊急交差点改良、他モード との交通連携等のソフト・ハードの渋滞対策を実施してきたところです。

一方で、国道31号の広島から呉方向の朝ビーク時間帯に依然として著しい渋滞があることなどから、有識者、行政、交通事業者及び経済団体等で構成される「広島・呉・東広島都市圏災害時交通マネジメント検討会」を斬たに設置し、交通需要抑制も含めた包括的な交通マネジメントを実施していきますのでお知らせします。

- 1. 開催日時 平成30年8月23日(木)10:00~12:00
- 開催場所 広島合同庁舎2号館7階5号会議室 (広島市中区上八丁堀6番30号)
- 3. 委 員 別紙のとおり
- <報道関係のみなさまへ>
- ○会議は非公開となりますが、冒頭の「挨拶」まで頭取り可能です。
- ○頭撮りをご希望の方は、会議開始5分前までに会場へお越しください。
- ○議事概要については会議終了後に公表する予定です。



広島高速道路公社企画調査部 企画調査課長

### 9.コミュニケーション戦略・モビリティマネジメント



- 連携の確認
- 関係者のネットワーキング
- 風化防止





#### 通勤交通強靭化訓練の効果(呉市)

- ●呉市内では、国道185号や国道31号、東広島呉道で渋滞継続時間や渋滞長が大きく改善しました。 【国道185号(呉→広方面)】渋滞継続時間:約120分(約62%)短縮、渋滞長:約1.8km(約58%)短縮
- ●公共交通機関では、JR呉駅の利用者数やバスの利用者数が増加しました。 【JR呉駅利用者】約17%増加、【クレアライン線】約17%増加、【呉市内】約10%増加



協力行動+ナッジ理論を援用した 需要のコントロール

### 10.災害時対応と過疎地MaaSは似ている?

#### 「災害時」と「過疎地」の共通点

- ・データベースがない、ITの仕組み弱い
- ・普段の行動とは異なる行動が前提
- ・圧倒的条件不利
- ・民間の牽引役が不在
- ・需要変動大
- ・供給コストが一定(限界費用ゼロ)
- ・収支マイナス, クロスセクター効果大
- ・関係者が少なく, 仕組み作りが楽
- ・条件不利状態こそ積極的に対応すべき
- ・手段としての交通ではなく, サービスと しての交通へ(例:新たな貨客連携)



